

## 2023年 昼間部

科 目		応用指圧実技Ⅱ	
科目分野	専 門 分 野	学 期	前 期
学 年	3 年次	担当教員	藤田一彦
単位数	4 単位		実務経験 治療院勤務9年 治療院経営35年
【授業の概要】 授業形態 実技			
1年、2年で学習した基本指圧、応用指圧、臨床自習前講習をベースに指圧適応疾患の技術を習得する			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各適応疾患の説明ができる。</li> <li>・臨床時における適応疾患の技術操作ができる。</li> <li>・治療効果が上がる技術操作ができる。</li> </ul>			
回	授業計画	回	授業計画
1	五十肩	16	
2	五十肩	17	
3	五十肩	18	
4	腰痛	19	
5	腰痛	20	
6	腰痛	21	
7	頸椎症	22	
8	頸椎症	23	
9	頸椎症	24	
10	変形性膝関節症	25	
11	変形性膝関節症	26	
12	変形性膝関節症	27	
13	期末試験	28	
14	期末試験	29	
15	ふり返り	30	
教科書 参考書等	指圧療法学 国際出版 プリント		
評価方法	実技試験,出席状況,授業の取り組み方を総合して評価。欠席5点,遅刻早退3点減ずる。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年 昼間部

科目		あん摩マッサージ指圧理論		
科目分野	専門 分野	学期	前中 期	
学年	3 年次	担当教員	上床 真耶、小俣 文華	
単位数	1 単位		実務経験	治療院経営5年 治療院経営2年
【授業の概要】 授業形態 講義				
<p>施術者が臨床現場において、あん摩マッサー指圧の適応、禁忌、治効の基礎的な知識を身につける為、あん摩マッサージ指圧の基本手技、歴史、その他の手技療法、併用する物理療法、施術の生体反応や関連学説まで概説する。中期は国家試験に向けて主にあん摩マッサージ理論の問題演習を行う。</p>				
【到達目標】				
<p>あん摩マッサージ指圧の特徴、意義、歴史的背景、基本手技とその作用を説明できる。 臨床現場で基本手技とその他の手技、併用する物理療法の種類と特徴について説明できる。</p>				
回	授業計画	回	授業計画	
1	授業の進め方 あん摩・マッサージ・指圧の意義と沿革	16	問題演習	
2	あん摩・マッサージ・指圧の基本手技	17	問題演習	
3	あん摩・マッサージ・指圧の基本手技	18	問題演習	
4	あん摩マッサージ指圧の各組織・器官におよぼす作用	19	問題演習	
5	運動の生体におよぼす作用 あん摩マッサージ指圧の治療効果	20	問題演習	
6	あん摩マッサージ指圧と東洋医学	21	問題演習	
7	あん摩マッサージ指圧の応用	22	問題演習	
8	併用する物理療法	23	問題演習	
9	あん摩マッサージ指圧の施術上の注意	24	問題演習	
10	予備日	25	問題演習	
11	演習	26	問題演習	
12	演習	27	問題演習	
13	演習	28	問題演習	
14	試験	29	問題演習	
15	試験解説	30	問題演習	
教科書 参考書等	あん摩マッサージ指圧理論 第2版 東洋療法学校協会編 配布プリント			
評価方法	前期試験の点数、60点以上で合格			
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満</p>			

## 2023年 昼間部

科目		課題研究	
科目分野	専門 分野	学 期	前中 期
学 年	3 年次	担当教員	青木 美稚子 (実務経験4年以上)
単位数	2 単位		久坂 健太(実務経験1年)
【授業の概要】 授業形態 講義			
国家試験で重要度の高い解剖学・東洋医学概論において、それぞれが弱点を把握、強化できるよう、小テストや問題演習、解説を中心に行う。			
【到達目標】			
問題演習を通じて解剖学・東洋医学概論の国試問題に慣れ、知識を定着させる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	骨格系 総論	16	ガイダンス、陰陽論、五行論、気血津液
2	骨格系 体幹	17	臓象
3	骨格系 四肢	18	気血津液病証
4	筋系 総論	19	臓腑病証①
5	筋系 体幹	20	臓腑病証②
6	筋系 上肢	21	臓腑病証③
7	筋系 下肢	22	経絡病証
8	筋系 頭頸部	23	病因
9	神経系 総論	24	四診
10	末梢神経系	25	試験
11	末梢神経系	26	試験返却
12	解剖経穴	27	問題演習①
13	解剖経穴	28	問題演習②
14	試験	29	問題演習③
15	試験返却 あん摩マッサージ指圧の歴史	30	問題演習④
教科書 参考書等	解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編		
評価方法	期末試験による。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

## 2023年 昼間部

科目		経絡経穴概論			
科目分野	専門 分野	学 期	前 期		
学 年	3 年次	担当教員	青木 美稚子		
単位数	1 単位		実務経験	治療院経営5年以上	
【授業の概要】 授業形態 講義					
国家試験で出題数の多い経絡経穴において、それぞれが弱点を把握、強化できるよう、小テストや問題演習、解説を中心に行う。					
【到達目標】					
問題演習を通じて経絡経穴概論の国試問題に慣れ、知識を定着させる。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	ガイダンス、経絡流注、骨度法		16		
2	肺経・大腸経・胃経・脾経		17		
3	心経・小腸経・膀胱経・腎経		18		
4	心包経・三焦経・胆経・肝経		19		
5	五要穴①		20		
6	五要穴②		21		
7	上肢の経穴①		22		
8	上肢の経穴②		23		
9	下肢の経穴		24		
10	腰背部の経穴		25		
11	胸腹部の経穴		26		
12	頭頸部の経穴		27		
13	まとめ		28		
14	試験		29		
15	試験返却、現代的研究		30		
教科書 参考書等		新版 経絡経穴概論 第2版 東洋療法学校協会編			
評価方法		小テスト(40%)および前期期末試験の評価(60%)を合計して評価する。 60点以上で単位を認定する。			
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満			

科 目		生物学	
科目分野	基礎 分野	学 期	前 期
学 年	3 年次	担当教員	近藤 恵
単位数	2 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>本科目では、主にヒトの生物学を学ぶ。ヒトを自然界における生物種の一つとして客観的に捉え、身体形質の特徴を進化的に理解する。さらに、身体の形態と機能の関連について着目し、そこから派生する文化や生活様式についても言及する。また、講義の中で関連する話題について、基礎的な生物学の知識の確認を行う。</p>			
【到達目標】			
<p>高等学校～大学教養課程までに学ぶ程度の生物学について、動物分野、特にヒトに関する単元をひと通り学び、基礎知識を再確認するとともに、広く生物に関する教養を身に付け、「ヒト」や「生物」により深く興味を持つようになることを目的とする。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	ガイダンス ヒトの生物学的位置	16	
2	細胞の構造と機能	17	
3	組織と器官	18	
4	生物体を構成する化学的成分	19	
5	ヒトの身体の特徴①頭蓋、脊柱	20	
6	ヒトの身体の特徴②胸郭、骨盤	21	
7	ヒトの身体の特徴③下肢、足	22	
8	ヒトの身体の特徴④上肢、手	23	
9	ヒトと文化	24	
10	咀嚼器官の退化	25	
11	生理的早産	26	
12	音声言語	27	
13	人類進化	28	
14	試験	29	
15	講評、まとめ	30	
教科書 参考書等	事前に準備するものはなし。授業で使用する資料は印刷物を配布する。参考書は必要に応じて授業中に紹介する。		
評価方法	試験70%、レポートもしくは小テスト30%		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。</p> <p>(1)A: 90～100点 (2)B: 80～89点 (3)C: 70～79点 (4)D: 60～69点 (5)F: 60点未満</p>		

## 2023年 夜間部

科目		生物学	
科目分野	基礎 分野	学 期	前 期
学 年	3 年次	担当教員	近藤 恵
単位数	2 単位		実務経験
【授業の概要】 授業形態 講義			
<p>本科目では、主にヒトの生物学を学ぶ。ヒトを自然界における生物種の一つとして客観的に捉え、身体形質の特徴を進化的に理解する。さらに、身体の形態と機能の関連について着目し、そこから派生する文化や生活様式についても言及する。また、講義の中で関連する話題について、基礎的な生物学の知識の確認を行う。</p>			
【到達目標】			
<p>高等学校～大学教養課程までに学ぶ程度の生物学について、動物分野、特にヒトに関する単元をひと通り学び、基礎知識を再確認するとともに、広く生物に関する教養を身に付け、「ヒト」や「生物」により深く興味を持つようになることを目的とする。</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	ガイダンス ヒトの生物学的位置	16	
2	細胞の構造と機能	17	
3	組織と器官	18	
4	生物体を構成する化学的成分	19	
5	ヒトの身体の特徴①頭蓋、脊柱	20	
6	ヒトの身体の特徴②胸郭、骨盤	21	
7	ヒトの身体の特徴③下肢、足	22	
8	ヒトの身体の特徴④上肢、手	23	
9	ヒトと文化	24	
10	咀嚼器官の退化	25	
11	生理的早産	26	
12	音声言語	27	
13	人類進化	28	
14	試験	29	
15	講評、まとめ	30	
教科書 参考書等	事前に準備するものはなし。授業で使用する資料は印刷物を配布する。参考書は必要に応じて授業中に紹介する。		
評価方法	試験70%、レポートもしくは小テスト30%		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。</p> <p>(1)A: 90～100点 (2)B: 80～89点 (3)C: 70～79点 (4)D: 60～69点 (5)F: 60点未満</p>		

## 2023年 昼間部

科目		総合生理学	
科目分野	専門基礎 分野	学 期	前 期
学 年	3 年次	担当教員	本多 剛
単位数	1 単位		実務経験 治療実務10年以上
【授業の概要】 授業形態 講義			
あん摩マッサージ指圧師が施術を行う上で必要となる人体の構造と機能の知識を身につけるため、解剖生理学総論、呼吸器系、循環器系、消化器系の構造と機能について概説する。			
【到達目標】			
細胞、組織、器官(呼吸器系、循環器系、消化器系)の構造・機能的概要を述べることができる。			
回	授業計画		
1	解剖生理学総論 ①		
2	解剖生理学総論 ②		
3	解剖生理学総論 ③		
4	解剖生理学総論 ④		
5	呼吸器系 ①		
6	呼吸器系 ②		
7	循環器系 ①		
8	循環器系 ②		
9	循環器系 ③		
10	循環器系 ④		
11	消化器系 ①		
12	消化器系 ②		
13	消化器系 ③		
14	期末試験		
15	試験返却・解説		
教科書 参考書等	解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 生理学 第3版 東洋療法学校協会編		
評価方法	期末試験の点数で評価する。60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年度 昼間部

科目		東洋医学臨床論Ⅱ	
科目分野	専門 分野	学期	前中 期
学年	3 年次	担当教員	山口智也
単位数	4 単位		実務経験 治療院経営8年
【授業の概要】 授業形態 講義			
東洋医学臨床論とは、解剖学、生理学、臨床医学総論・各論、東洋医学概論、経絡経穴概論の知識を統合して病態生理を判断しあん摩マッサージ指圧師として施術適応かどうかを学ぶ科目です。			
【到達目標】			
患者から得られる所見より施術適応の可否を判断し、あん摩マッサージ指圧療法を活用するまでの一連の流れを習得する。			
回	授業計画	回	授業計画
1	脱毛症	16	血圧異常
2	めまい	17	肥満
3	耳鳴り・難聴	18	発熱
4	咳嗽	19	のぼせ冷え
5	喘息・喘鳴	20	不眠
6	胸痛	21	疲労
7	腹痛	22	小児疾患
8	悪心・嘔吐	23	老年医学
9	食欲不振	24	問題演習1
10	便秘・下痢	25	中期試験
11	便秘・下痢、月経異常	26	中期試験解説
12	月経異常	27	問題演習2
13	排尿障害	28	問題演習3
14	前期試験	29	問題演習4
15	前期試験解説、インポテンツ	30	問題演習5
教科書 参考書等	東洋医学臨床論(あん摩マッサージ指圧編・鍼灸編) 東洋療法学校協会編 新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論 東洋療法学校協会編 配布プリント		
評価方法	前期試験及び中期試験の結果で評価する。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		



科目		東洋医学臨床論Ⅱ	
科目分野	専門 分野	学期	前中期
学年	3 年次	担当教員	浅谷 健介
単位数	4 単位		治療院経営等15年以上
【授業の概要】 授業形態 講義			
あん摩マッサージ指圧師が臨床の場において多く遭遇する疾患に対して、病態把握とともに鑑別診断、症状、検査、治療について学習する。			
【到達目標】			
施術の適否を判断し、あん摩マッサージ指圧療法を行うまでの経過を習得する。			
回	授業計画	回	授業計画
1	治療総論	16	膝関節痛
2	頸椎症	17	膝関節痛
3	胸郭出口症候群	18	頭痛
4	肩関節痛	19	頭痛
5	腱板損傷	20	顔面痛
6	肩関節周囲炎	21	顔面神経麻痺
7	絞扼性神経障害	22	スポーツ外傷
8	絞扼性神経障害	23	ストレッチ
9	絞扼性神経障害	24	外側上顆炎
10	腰下肢痛	25	期末試験
11	腰痛症	26	野球肩
12	腰痛症	27	腱鞘炎
13	物理療法	28	膝関節障害
14	期末試験	29	膝関節障害
15	物理療法	30	骨折・脱臼
教科書 参考書等	主に配布プリント		
評価方法	期末試験で評価する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年度 昼間部

科目		臨床医学各論Ⅱ	
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期
学年	3 年次	担当教員	久保井 律子
単位数	2 単位		実務経験 治療院勤務・出張業務 2年
【授業の概要】 授業形態 講義			
臨床現場で遭遇する代表的疾患の病態、診断、症状を概説する。			
【到達目標】			
代表的疾患それぞれについて、病態、診断、症状を説明することができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	授業の進め方、評価方法 第13章 その他の領域 B.一般外科①	16	第11章 H.運動ニューロン疾患 I.末梢神経性疾患
2	第13章 その他の領域 B.一般外科②	17	第11章 J.神経痛 K.機能性疾患
3	第13章 その他の領域 B.一般外科③	18	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ①
4	第13章 その他の領域 C.麻酔科	19	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ②
5	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 A.リウマチ性疾患	20	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ③
6	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 B.膠原病①	21	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ④
7	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 B.膠原病②	22	第13章 その他の領域 A.小児科疾患 H.精神科疾患 I.心療内科 J.加齢に伴う病態
8	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 B.膠原病③	23	国家試験対策①
9	第11章 神経疾患 A.脳血管疾患①	24	国家試験対策②
10	第11章 神経疾患 A.脳血管疾患②	25	中期試験
11	第11章 神経疾患 B.感染性疾患 C.脳・脊髄腫瘍	26	試験返却、解説
12	第11章 神経疾患 D.基底核変性疾患 E.その他の変性疾患	27	国家試験対策③
13	第11章 神経疾患 F.認知症疾患 G.筋疾患	28	国家試験対策④
14	前期試験	29	国家試験対策⑤
15	試験返却、解説	30	国家試験対策⑥
教科書 参考書等	臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編		
評価方法	前期、中期各期に定期試験を行う。 各定期試験の評価を合計/2で評価する。 小テストの結果に応じて定期試験評価に加点することがある。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

2023年度 夜間部

科目		臨床医学各論Ⅱ	
科目分野	専門基礎 分野	学期	前中 期
学年	3 年次	担当教員	久保井 律子
単位数	2 単位		実務経験 治療院勤務・出張業務 2年
【授業の概要】 授業形態 講義			
臨床現場で遭遇する代表的疾患の病態、診断、症状を概説する。			
【到達目標】			
代表的疾患それぞれについて、病態、診断、症状を説明することができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	授業の進め方、評価方法 第13章 その他の領域 B.一般外科①	16	第11章 H.運動ニューロン疾患 I.末梢神経性疾患
2	第13章 その他の領域 B.一般外科②	17	第11章 J.神経痛 K.機能性疾患
3	第13章 その他の領域 B.一般外科③	18	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ①
4	第13章 その他の領域 C.麻酔科	19	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ②
5	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 A.リウマチ性疾患	20	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ③
6	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 B.膠原病①	21	第13章 その他の領域 D.婦人科疾患 E.皮膚科疾患 F.眼科疾患 G.耳鼻科疾患 ④
7	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 B.膠原病②	22	第13章 その他の領域 A.小児科疾患 H.精神科疾患 I.心療内科 J.加齢に伴う病態
8	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 B.膠原病③	23	国家試験対策①
9	第11章 神経疾患 A.脳血管疾患①	24	国家試験対策②
10	第11章 神経疾患 A.脳血管疾患②	25	中期試験
11	第11章 神経疾患 B.感染性疾患 C.脳・脊髄腫瘍	26	試験返却、解説
12	第11章 神経疾患 D.基底核変性疾患 E.その他の変性疾患	27	国家試験対策③
13	第11章 神経疾患 F.認知症疾患 G.筋疾患	28	国家試験対策④
14	前期試験	29	国家試験対策⑤
15	試験返却、解説	30	国家試験対策⑥
教科書 参考書等	臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編		
評価方法	前期、中期各期に定期試験を行う。 各定期試験の評価を合計/2で評価する。 小テストの結果に応じて定期試験評価に加点することがある。 各期における評価が60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年度 昼間部

科目		臨床指各論Ⅱ	
科目分野	専門 分野	学期	前中 期
学年	3 年次	担当教員	前期:金子 泰隆 治療院経営15年以上 中期:石塚 洋之 実務経験16年以上
単位数	2 単位		
授業形態 実技			
<p>【前期 金子:授業の概要】            押圧法の基本的操作を習得するとともに主要な関節における病態把握と施術法を学ぶ。</p> <p>【中期 石塚:授業の概要】            腰・肩・膝・頸の部位ごとの病態を踏まえたうえで、適切な機能・障害評価方法と指圧方法・評価結果に応じた運動指導方法を学ぶ。</p>			
<p>【前期 金子:到達目標】            無理のない押圧動作ができるようになる、病態に応じた施術ができるようになる。</p> <p>【中期 石塚:到達目標】            機能・障害評価ができ評価の結果に応じた指圧治療、運動療法を指導・実践できること</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	ガイダンス, 基本的押圧動作のチェック①	16	腰痛症① 評価と指圧法
2	基本的押圧動作のチェック②	17	腰痛症② 評価に応じた各種訓練
3	膝痛の病態把握及び治療①	18	腰痛症①・② 復習
4	膝痛の病態把握及び治療②	19	症例トレーニング 腰痛症
5	膝痛患者への対応	20	肩関節疾患① 評価と評価に応じた指圧法
6	肩関節痛の病態把握及び治療①	21	肩関節疾患② 評価に応じた各種訓練
7	肩関節痛の病態把握及び治療②	22	症例トレーニング 肩関節疾患
8	肩関節痛患者への対応	23	膝関節疾患① 評価と検査法
9	腰痛の病態把握および治療①	24	膝関節疾患② 評価に応じた指圧法
10	腰痛の病態把握および治療②	25	膝関節疾患③ 評価に応じた各種訓練
11	腰痛患者への対応	26	症例トレーニング 膝関節疾患
12	頸部痛の病態把握および治療①	27	頸部の施術 触診と関節へのアプローチ
13	頸部痛の病態把握および治療②	28	総合復習
14	頸部痛患者への対応	29	骨盤アライメント触診
15	前期まとめ	30	実技テスト
教科書 参考書等	前期:指圧療法学 国際医学出版者		
評価方法	前期:金子 欠席1回につき-5点、遅刻・早退1回につき-3点を満点より減点し、その点数に授業態度等を総合的に評価する。卒業実技試験において不合格のものには単位を与えない。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科目		臨床実習Ⅱ			
科目分野	専門 分野	学 期	前 中 期		
学 年	3 年次	担当教員	黒沢純一(治療院勤務23年)金子智久(治療院経営24年)大久保直子(治療院勤務12年)青木美稚子(同10年)中村愛(同6年)		
単位数	3 単位				
【授業の概要】 授業形態 臨床実習					
患者を対象とした臨床実習を通じ、臨床現場での考え方、技術を学ぶ。					
【到達目標】					
あん摩マッサージ指圧師としての基礎的な臨床能力を身につける。					
回	授業計画		回	授業計画	
1	臨床実習1		25	臨床実習25	
2	臨床実習2		26	臨床実習26	
3	臨床実習3		27	臨床実習27	
4	臨床実習4		28	臨床実習28	
5	臨床実習5		29	臨床実習29	
6	臨床実習6		30	臨床実習30	
7	臨床実習7		31	臨床実習31	
8	臨床実習8		32	臨床実習32	
9	臨床実習9		33	臨床実習33	
10	臨床実習10		34	臨床実習34	
11	臨床実習11		35	臨床実習35	
12	臨床実習12		36	臨床実習36	
13	臨床実習13		37	臨床実習37	
14	臨床実習14		38	臨床実習38	
15	臨床実習15		39	臨床実習39	
16	臨床実習16		40	臨床実習40	
17	臨床実習17		41	臨床実習41	
18	臨床実習18		42	臨床実習42	
19	臨床実習19		43	臨床実習43	
20	臨床実習20		44	臨床実習44	
21	臨床実習21		45	臨床実習45	
22	臨床実習22		46	臨床実習46	
23	臨床実習23		47	臨床実習47	
24	臨床実習24		48	臨床実習48	

49	臨床実習49	60	臨床実習60
50	臨床実習50	61	臨床実習61
51	臨床実習51	62	臨床実習62
52	臨床実習52	63	臨床実習63
53	臨床実習53	64	臨床実習64
54	臨床実習54	65	臨床実習65
55	臨床実習55	66	臨床実習66
56	臨床実習56	67	臨床実習67
57	臨床実習57	68	臨床実習68
58	臨床実習58	69	
59	臨床実習59	70	
<b>教科書 参考書等</b>	特になし 必要な資料があれば適宜配布する。		
<b>評価方法</b>	試験結果に加え、実習への取り組みから評価する。		
<b>成績評価指標</b>	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年度 昼間部

科目		応用指圧実技Ⅱ	
科目分野	専門 分野	学期	中期
学年	3 年次	担当教員	碓田雅子
単位数	4 単位		実務経験 治療院開業21年以上
【授業の概要】 授業形態 実技			
臨床において有効な施術および必要に応じての機能訓練を学ぶ			
【到達目標】			
臨床を見据え、安全かつ有効な施術ができること。高齢化社会に対応する機能訓練ができること。			
回	授業計画	回	授業計画
1	臨床の現状/注意点/スタンス確認	16	
2	腰痛治療1	17	
3	肩関節治療	18	
4	頸部治療	19	
5	腱鞘炎・肘痛治療	20	
6	膝痛治療1	21	
7	膝痛治療2/腰痛治療2	22	
8	腹部	23	
9	各部位復習/試験対策	24	
10	実技試験	25	
11	訪問マッサージ指圧と機能訓練1	26	
12	訪問マッサージ指圧と機能訓練2	27	
13	各部位復習と機能訓練3	28	
14	各部位復習と機能訓練4	29	
15	各部位復習/経験談から見るリスクマネジメント	30	
教科書 参考書等	指圧療法学 改訂第一版 国際医学出版		
評価方法	実技試験、出席状況、指圧実習レポート提出(任意)などを総合して評価するが卒業認定試験において欠点のものは単位を認めない。欠席は5点、遅刻は3点減ずる。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科目		応用指圧実技Ⅱ	
科目分野	専門 分野	学 期	中 期
学 年	3 年次	担当教員	金子 智久
単位数	1 単位		実務経験 治療院勤務3年、出張治療院経営20年
【授業の概要】 授業形態 実技			
卒業まで一年を切りました。この授業では患者様の主訴に対して治療を組み立てる要素を学習し、将来に役立てて頂きたいと思っております。卒業後の現場を想定し、ベッドを主に使い学習して行きます。			
【到達目標】			
卒業後を見据え、患者様の主訴に対し、治療方法を選択でき、単位時間にて有効な施術が出来る。			
回	授業計画	回	授業計画
1	姿勢・スタンスの確認:伏臥位(床)	16	
2	姿勢・スタンスの確認・腹部指圧の効果:仰臥位(床)	17	
3	指圧における運動操作の意義	18	
4	腸腰筋の評価と指圧治療	19	
5	仙腸関節への指圧法①	20	
6	仙腸関節への指圧法②	21	
7	仙腸関節への指圧法③	22	
8	梨状筋の評価とアプローチ	23	
9	大腿筋膜張筋の評価とアプローチ	24	
10	腰椎椎間関節へのアプローチ、復習	25	
11	斜角筋症候群の治療法①	26	
12	斜角筋症候群の治療法②、胸鎖乳突筋の治療法	27	
13	頸椎椎間関節機能障害の治療法	28	
14	期末試験①	29	
15	期末試験②	30	
教科書 参考書等	指圧療法学 改訂第1版 国際医学出版		
評価方法	実技試験、出席状況、授業への取り組み方などを総合して評価する。 欠席は-5点、遅刻・早退は-3点減ずる。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		



## 2023年 昼間部

科目		関係法規	
科目分野	専門基礎 分野	学期	中期
学年	3 年次	担当教員	上床 真耶
単位数	1 単位		実務経験 5年
【授業の概要】 授業形態 講義			
あん摩マッサージ指圧師の法的根拠となるあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律(あはき法)とあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律施行規則(あはき法施行規則)について、卒業後関係すると考えられる条文を読み込んでいく。			
【到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の医療福祉制度におけるあん摩マッサージ指圧師の法的根拠、位置づけを理解する。</li> <li>あん摩マッサージ指圧師の法的制限、注意事項について説明できる。</li> </ul>			
回	授業計画	回	授業計画
1	免許① 医業類似行為、法第1条、	16	
2	免許② 積極的要件、消極的要件、名簿	17	
3	免許③ 名簿登録消除、 免許証(書換交付、再交付、返納)	18	
4	免許④ 免許に関する問題演習、業務の独占	19	
5	業務① 禁止行為、制限行為、 施術所の開設、要件	20	
6	業務② 出張業務、滞在業務、広告制限	21	
7	業務③ 施術所名称制限、秘密保持義務、 両罰規定、業務停止命令	22	
8	グループディスカッション	23	
9	演習	24	
10	試験	25	
11	試験解説	26	
12	関係法規①法と実定法、医事法規と医療制度	27	
13	関係法規②医師法、その他の医療従事者に関する法律	28	
14	関係法規③薬事法規、社会福祉関係法規	29	
15	演習	30	
教科書 参考書等	関係法規(第7版) 東洋療法学校協会編 前田和彦 著 配布プリント		
評価方法	中期試験の点数、60点以上で合格		
成績評価指標	<p>1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。</p> <p>(1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満</p>		

2023年 昼間部

科目		総合解剖学	
科目分野	専門基礎 分野	学期	中期
学年	3 年次	担当教員	久坂 健太
単位数	1 単位		実務経験 1年
<b>【授業の概要】 授業形態 講義</b> 国家試験に向け、解剖学(内臓器、神経系)について演習問題をもとに生理学、臨床医学に関連付けて、構造、働きを学んでいく。			
<b>【到達目標】</b> 各組織の構造、運動を理解し、演習問題を解くことができる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	神経系	16	
2	中枢神経系	17	
3	中枢神経系	18	
4	感覚器系	19	
5	感覚器系	20	
6	泌尿器系	21	
7	泌尿器系	22	
8	生殖器系	23	
9	生殖器系	24	
10	試験	25	
11	返却	26	
12	内分泌系	27	
13	内分泌系	28	
14	問題演習	29	
15	問題演習	30	
教科書 参考書等	解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 適宜配布する資料をメインに進めていく。		
評価方法	筆記試験の結果から評価する。 60点以上で単位を認定する。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年度 昼間部

科目		臨床指各論Ⅱ	
科目分野	専門 分野	学期	前中 期
学年	3 年次	担当教員	前期:金子 泰隆 治療院経営15年以上 中期:石塚 洋之 実務経験16年以上
単位数	2 単位		
授業形態 実技			
<p>【前期 金子:授業の概要】 押圧法の基本的操作を習得するとともに主要な関節における病態把握と施術法を学ぶ。</p> <p>【中期 石塚:授業の概要】 腰・肩・膝・頸の部位ごとの病態を踏まえたうえで、適切な機能・障害評価方法と指圧方法・評価結果に応じた運動指導方法を学ぶ。</p>			
<p>【前期 金子:到達目標】 無理のない押圧動作ができるようになる、病態に応じた施術ができるようになる。</p> <p>【中期 石塚:到達目標】 機能・障害評価ができ評価の結果に応じた指圧治療、運動療法を指導・実践できること</p>			
回	授業計画	回	授業計画
1	ガイダンス, 基本的押圧動作のチェック①	16	腰痛症① 評価と指圧法
2	基本的押圧動作のチェック②	17	腰痛症② 評価に応じた各種訓練
3	膝痛の病態把握及び治療①	18	腰痛症①・② 復習
4	膝痛の病態把握及び治療②	19	症例トレーニング 腰痛症
5	膝痛患者への対応	20	肩関節疾患① 評価と評価に応じた指圧法
6	肩関節痛の病態把握及び治療①	21	肩関節疾患② 評価に応じた各種訓練
7	肩関節痛の病態把握及び治療②	22	症例トレーニング 肩関節疾患
8	肩関節痛患者への対応	23	膝関節疾患① 評価と検査法
9	腰痛の病態把握および治療①	24	膝関節疾患② 評価に応じた指圧法
10	腰痛の病態把握および治療②	25	膝関節疾患③ 評価に応じた各種訓練
11	腰痛患者への対応	26	症例トレーニング 膝関節疾患
12	頸部痛の病態把握および治療①	27	頸部の施術 触診と関節へのアプローチ
13	頸部痛の病態把握および治療②	28	総合復習
14	頸部痛患者への対応	29	骨盤アライメント触診
15	前期まとめ	30	実技テスト
教科書 参考書等	前期:指圧療法学 国際医学出版者		
評価方法	前期:金子 欠席1回につき-5点、遅刻・早退1回につき-3点を満点より減点し、その点数に授業態度等を総合的に評価する。卒業実技試験において不合格のものには単位を与えない。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

科目		応用指圧実技Ⅱ		
科目分野	専門 分野	学 期	後 期	
学 年	3 年次	担当教員	金子智久(治療院勤務3年、出張治療院経営19年)	
単位数	1 単位		本多 剛(治療実務20年以上)	
【授業の概要】 授業形態 実技				
卒業まで一年を切りました。この授業では患者様の主訴に対して治療を組み立てる要素を学習し、将来に役立てて頂きたいと思います。卒業後の現場を想定し、ベッドを主に使い学習して行きます。				
【到達目標】				
患者の主訴に対して、単位時間内に有効な指圧施術ができる。				
回	授業計画			
1	全身指圧治療①			
2	全身指圧治療②			
3	全身指圧治療③			
4	全身指圧治療④			
5	全身指圧治療⑤			
6	全身指圧治療⑥			
7				
8				
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	
教科書 参考書等		指圧療法学 改訂第1版 国際医学出版		
評価方法		実技試験、出席状況、授業への取り組み方などを総合して評価する。 欠席は-5点、遅刻・早退は-3点減ずる。		
成績評価指標		1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

2023年度 夜間部

科 目		応用指圧実技Ⅱ	
科目分野	専 門 分 野	学 期	後 期
学 年	3 年次	担当教員	大木 慎平(治療院経営6年)
単位数	4 単位		大久保 直子(治療院勤務10年)
【授業の概要】 授業形態 実技			
1年、2年で身に着けた基本指圧、応用指圧、臨床実習をベースに、様々な症状に応じた操作を学習する。			
【到達目標】			
施術の目的を明確に説明できる。			
回	授業計画	回	授業計画
1	上肢症状の応用操作	16	
2	上肢症状の応用操作	17	
3	下肢症状の応用操作	18	
4	下肢症状の応用操作	19	
5	背部症状の応用操作	20	
6	背部症状の応用操作	21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
教科書 参考書等	適宜、必要資料を配布する。		
評価方法	授業への取り組み、出席状況を総合して評価する。 欠席は5点、遅刻早退は3点減ずる。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		

## 2023年度 昼間部

科目			
科目分野	専門 分野	学期	後 期
学年	3 年次	担当教員	浪越雄二 治療院勤務32年
単位数	1 単位		青木美稚子 治療院経営5年以上
【授業の概要】 授業形態 講義			
卒業まで一年を切りました。この授業では患者様の主訴に対して治療を組み立てる要素を学習し、将来に役立てて頂きたいと思います。卒業後の現場を想定し、ベッドを主に使い学習して行きます。			
【到達目標】			
卒業まで一年を切りました。この授業では患者様の主訴に対して治療を組み立てる要素を学習し、将来に役立てて頂きたいと思います。卒業後の現場を想定し、ベッドを主に使い学習して行きます。			
回	授業計画	回	授業計画
1	応用指圧操作	16	
2	応用指圧操作	17	
3	応用指圧操作	18	
4	校内模試	19	
5	応用指圧操作	20	
6		21	
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	
教科書 参考書等	指圧療法学改訂第1版(国際医学出版)		
評価方法	実技試験、出席状況、授業への取り組み方などを総合して評価する。 欠席は-5点、遅刻・早退は-3点減ずる。		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90~100点 (2)B:80~89点 (3)C:70~79点 (4)D:60~69点 (5)F:60点未満		

2023年度 昼間部

科目		地域経営	
科目分野	専門 分野	学 期	後期
学 年	3 年次	担当教員	碓田雅子、浅谷健介、金子泰隆、高橋雄輔
単位数	2 単位		実務経験 治療院開業21年、15年、治療院勤務19年
【授業の概要】 授業形態 講義			
あん摩マッサージ指圧師を取り巻く環境を理解し、社会におけるあん摩マッサージ指圧師の役割について考える。			
【到達目標】			
あん摩マッサージ指圧師にかかわりの深い現行の社会制度を理解し、職業の意義・社会的役割を考慮しながら将来の計画を立てる力を身につける。			
回	授業計画	回	授業計画
1	医療保険制度について：療養費制度について(碓田)	16	問題演習 ⑤ (高橋)
2	問題演習 ① (高橋)	17	国家試験試験対策 (浅谷)
3	あま指師を取り巻く現状について(金子泰)	18	開業と経営について (1) (碓田)
4	医療保険制度について：I 療養費制度とあま指 (碓田)	19	模擬試験
5	模擬試験	20	模擬試験
6	模擬試験	21	開業と経営について (2) (碓田)
7	医療保険制度について：II 療養費制度とあま指 (碓田)	22	問題演習 ⑥ (高橋)
8	問題演習 ② (高橋)	23	国家試験試験対策 (浅谷)
9	あま指師の社会的役割について(金子泰)	24	あん摩マッサージ指圧師免許を活かす：就職/開業 (碓田)
10	医療保険制度について：III 療養費制度とあま指 (碓田)	25	まとめ
11	医療保険制度について：IV 療養費制度とあま指 (碓田)	26	まとめ
12	問題演習 ③ (高橋)	27	セラピストとしての未来/生き方について (碓田)
13	開業と経営について (金子泰)	28	問題演習 ⑦ (高橋)
14	ふり返り(碓田)	29	国家試験試験対策 (浅谷)
15	療養費制度の取り扱いについて (碓田)	30	総括/Q&A (碓田)
教科書 参考書等	教科書は使用しません。自治体で配布する「国民健康保険」「介護保険」のパンフレットを教材として使用します。また適宜プリントを配布します		
評価方法	試験により評価する。60点以上で単位を認定する		
成績評価指標	1. 当該科目の総授業時間数のうち3分の2以上の出席に達しない者は、単位の認定を行わない。 2. 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。 (1)A:90～100点 (2)B:80～89点 (3)C:70～79点 (4)D:60～69点 (5)F:60点未満		